

# 病虫害発生予察指導情報

(果樹全般・カメムシ類 No.12)

令和3年8月27日

鳥取県病虫害防除所

## 1. 情報の内容

8月第5半旬現在、予察灯におけるカメムシ類の誘殺数が増加しています。一部地域のナシ園およびカキ園においてカメムシ類の飛来が確認されました。カメムシ類の飛来状況は、ほ場間差が大きいため注意が必要です。ほ場の観察を徹底し、カメムシ類がみられる場合は、防除を実施して下さい。

## 2. 情報の根拠

- (1) 8月第5半旬現在、県予察ほ場の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、河原町で平年に比べて多く、八頭町、北栄町でやや多い(表1-1)。クサギカメムシの誘殺数は、河原町で平年に比べてやや多い(表1-2)。ツヤアオカメムシの誘殺数は、河原町で平年に比べて多い(表1-3)。
- (2) 8月第5半旬現在、県予察ほ場(園芸試験場)の集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年並である(図1)。
- (3) 8月下旬現在、一部の果樹園でカメムシ類の飛来および果実被害が認められている。
- (4) 向こう1か月の気象予報は、カメムシ類の加害活動にやや好適な条件である。

## 3. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う(ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択)。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (4) 各樹種の防除薬剤は表2を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守る。

表1-1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町**		鳥取市河原町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	0	1.8			0	1.5
5月計	48	111.2	13	118.9	49	94.9
6月計	71	243.5	30	139.1	30	165.8
7月計	66	1327.6	37	388.5	43	268.7
8月1半旬	24	131.5	欠測	93.3	33	82.1
2半旬	58	131.0	欠測	133.5	39	92.0
3半旬	93	147.6	欠測	157.0	68	218.1
4半旬	175	124.2	欠測	167.0	155	101.4
5半旬	285	215.7	1491	219.0	236	119.2
6半旬		230.1		172.6		85.2
9月1半旬		205.0		170.9		59.8
2半旬		248.6		233.9		43.0
3半旬		168.6		134.6		36.4

\*平年：H23～R2

\*\*八頭町はR3年度から調査地点を変更。平年は前年までの調査地点の数値を示す。

表1-2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町**		鳥取市河原町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	0	2.1			0	0
5月計	0	16.2	0	5.9	0	2.5
6月計	14	66.5	1	16.1	0	0.4
7月計	103	712.8	25	276.8	1	1.9
8月1半旬	43	203.6	欠測	125.9	10	41.2
2半旬	84	187.7	欠測	139.1	17	44.1
3半旬	121	235.4	欠測	165.2	16	54.7
4半旬	126	155.6	欠測	132.6	27	35.8
5半旬	120	162.4	204	128.0	33	26.1
6半旬		101.6	0	50.7		12.4
9月1半旬		37.8	0	22.9		6.2
2半旬		37.3	0	17.5		3.2
3半旬		29.6	0	19.6		3.3

\*平年：H23～R2

\*\*八頭町はR3年度から調査地点を変更。平年は前年までの調査地点の数値を示す。

表1-3 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町**		鳥取市河原町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
4月計	0	0.1			0	0
5月計	2	10.0	5	6.6	10	47.3
6月計	7	144.2	8	131.8	22	195.8
7月計	10	221.6	6	220.2	8	274.3
8月1半旬	4	51.9	欠測	39.4	15	41.2
2半旬	12	65.1	欠測	68.6	32	104.1
3半旬	84	55.6	欠測	69.9	23	82.1
4半旬	69	43.4	欠測	58.3	51	27.5
5半旬	20	45.9	284	56.5	17	32.4
6半旬		46.0		43		14.8
9月1半旬		42.9		27.8		26.7
2半旬		58.8		30.7		19.1
3半旬		55.3		22.2		22.0

\*平年：H23～R2

\*\*八頭町はR3年度から調査地点を変更。平年は前年までの調査地点の数値を示す。

チャバネアオカメムシ

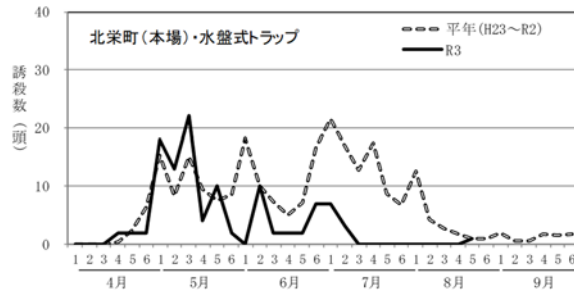


図1 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数

表2 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準\*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	IRAC コード**	薬剤の系統
なし	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内		
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000倍～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレスロイド系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500倍	収穫前日まで			
テルスターフロアブル	3,000倍～ 6,000倍	収穫前日まで	2回以内			
かき	ジノテフラン水溶剤*** (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内***	4A	ネコチノイド系
	クロラントラニプロール ジノテフラン水和剤*** (キックオフ顆粒水和剤)	2,000倍	収穫前日まで		ジノテフラン： 4A クロラントラニ プロール：28	ネコチノイド系 ジアドリド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	アグロスリン水和剤	1,000倍～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3A	合成ピレスロイド系
	キラップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2B	フェニルラザール系
ぶどう	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
りんご	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	4A	ネコチノイド系
	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	3A	合成ピレスロイド系

\*農薬の登録内容は令和3年度8月11日現在

\*\*IRACコードは殺虫剤の作用機構の分類を示す。

\*\*\*ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、4回以内（塗布は1回以内、散布は3回以内）

(お問合せ先) 鳥取県病害虫防除所 (鳥取県園芸試験場内、TEL：0858-37-4211)



この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.jpnpn.ne.jp/tottori/> です。

ホームページ2次元コード